



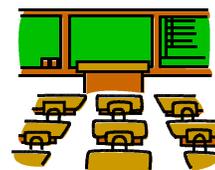
平成31年度全国学力・学習状況調査結果の分析と 学力向上に向けた取組について

宇治田原町では、義務教育9年間を見通した、発達の段階に応じた計画的・継続的な指導により、「基礎・基本の定着と学力の向上」、「規範意識の醸成による学習・生活習慣の確立」、「学びに向かう力、豊かな人間性の育成」を目指す教育に取り組んでいます。

本年4月に行われた学力調査や意識調査の結果をお知らせする中で、対象学年だけでなく、全ての学年の関係者が現状を共有し、今後の取組に活かしていくことが重要であると考えています。

保護者のみなさまのご理解・ご協力をお願いいたします。

| | |
|------|--|
| ○実施日 | 平成31年4月18日(木) |
| ○受検者 | 宇治田原町立小学校第6学年児童・・・・・・・・72名 宇治田原町立中学校第3学年生徒・・・・・・・・72名 |



1 小学校の学力状況

(1) 国語について

宇治田原町の児童の国語の正答率は、全国平均をやや下回っています。観点別に見て「話す・聞く能力」と「言語についての知識・理解・技能」の問題の正答率が全国平均より低い一方で、「書く能力」、「読む能力」の問題の正答率は全校平均とほぼ同じ状況です。

ア 子どもたちに付けたい力

- ・限られた時間の中で、深く正確に読み込む力
- ・様々な資料を読み取り、総合的に全体の様子を捉える力
- ・大事な部分を聞き(読み)分けて内容を理解し、自分の言葉で表現する力
- ・漢字の確実な習得や文法の理解などの言語力

イ 学力向上のための手立ての例

- ・時間をかけて物語を読み込んだり、速読して話のあらすじや大まかな様子をつかんだりするなどいろいろな読み方をさせることによって読解力を高める。
- ・順序立てて話をしたり、理由を明らかにして説明したり、発達の段階に応じた話し合い活動を取り入れたりすることによってコミュニケーション能力を高める。
- ・漢字の確実な習得を図る「モジュール授業」を更に充実させたり、意図的、計画的に語彙を増やす活動を行ったりすることで言語力の向上を図る。

(2) 算数について

宇治田原町の児童の算数の正答率は全国平均とほぼ同じです。観点別に見て「数量や図形についての技能」、「数量や図形についての知識・理解」の問題の正答率は全国平均より高い一方で、「数学的な考え方」の問題の正答率は全国平均より低くなっています。

ア 子どもたちに付けたい力

- ・問題に出てくる様々な問いかけに対して粘り強く取り組む姿勢
- ・問いかけの意図を意識しながら問題文を読み解く力
- ・筋道を立てて考え、事実から法則性を見つけ出す力



イ 学力向上のための手立ての例

- ・実際の生活場面に置き換えるなど児童のイメージをふくらませる工夫をする。
- ・繰り返し学習などを充実させて問題の解き方の習熟を図らせるとともに、様々なパターンの問題に取り組ませ、いろいろな問題を解く経験を積ませる。
- ・日頃の学習や生活経験の中で算数のよさを味わわせ、算数が好きになり算数を生活の中で活かそうとする気持ちを育てる。
- ・簡単な数に置き換えたり文章を簡素化して整理したりすることによって、学習課題をつかみやすくさせる。
- ・算数に関する掲示や図書などの充実を図るなど、日頃から算数に触れ合い算数のよさを感じられるような校内の環境を整える。

2 中学校の学力状況

(1) 国語について

宇治田原町の生徒の正答率は全国平均をやや下回っています。観点別に見て「読む能力」や「言語についての知識・理解・技能」の問題の正答率が全国平均より低い一方で、「国語への関心・意欲・態度」の問題の正答率は全国平均より高く、「書く能力」の問題の正答率は全国平均とほぼ同じ状況です。

ア 子どもたちに付けたい力

- ・言語や、表現、対話に関する興味・関心
- ・長い文章を速読して話の概要（あらすじ）をつかむ力
- ・長文をじっくりと読み込み、内容を理解する力
- ・問いで聞かれている内容を整理して考え、設問に答える力



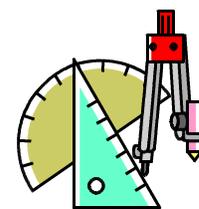
イ 学力向上のための手立ての例

- ・論理的で客観的な説明文を読み、その内容の把握や論理の流れの理解を通して、その構成を的確に捉える力を育てる。
- ・時間をかけて文章を深く読み込むだけでなく、文章の概要を決められた字数内でまとめたり、キーワードに注意して要点を抜き出したりするなどおまかに文意をつかむ力を付ける。
- ・発表や話し合いの場面で「どういう事実に基づいた意見か」、「何を根拠にしているか」等、物事を論理的に説明する習慣を身に付けさせることによって論理的思考力を高める。
- ・図やグラフなどの複数の情報と、文章の情報を関連させ、複合的で多面的な視点で、一つの物事について理解する力を育てる。また、その中で情報を取捨選択する力を養う。

(2) 数学について

宇治田原町の生徒の正答率は全国平均を下回っています。観点別に見て「数学的な見方や考え方」と「数学的な技能」の問題の正答率が全国平均より低い一方で、「数量や図形についての知識・理解」の問題の正答率は全国平均とほぼ同じ状況です。

- ア 子どもたちに付けたい力
- ・数学に関する基礎的・基本的な知識・技能
 - ・事実をつかみ分析し、論理的に考える力
 - ・表、グラフ、図から情報を的確に読み取る技能

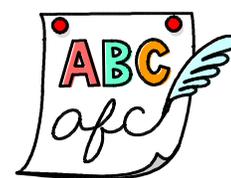


- イ 学力向上のための手立ての例
- ・できる限り具体物を使った教材提示や例示、デジタル教科書等の使用、簡単な数値に置き換えた説明等を行うことで問題の場面理解、内容把握を図る。
 - ・根拠に基づいて意見を述べたり、段階的に説明する活動場面を意図的、計画的に作り、論理的思考力を身に付けさせる。
 - ・問題を読み解くための基礎的な知識や技能の習得とともに、基本的な問題を確実に解くための反復学習など基礎的・基本的な学力の定着・充実を図る。
 - ・数理的な処理のよさや問題を解く楽しさを味わわせる指導の場面を設定し、数学に対する関心を高める。

(3) 英語について

宇治田原町の生徒の正答率は全国平均をやや下回っています。観点別に見ると「外国語理解の能力」と「言語や文化についての知識・理解」の問題の正答率が全国平均より低い一方で、「聞くこと」や「話すこと」の「外国語表現の能力」の間際の正答率は全国平均を上回っています。

- ア 子どもたちに付けたい力
- ・基礎的・基本的な英文法についての知識・理解
 - ・英文の重要なポイントを読み取り、内容を的確に把握する力
 - ・長文の読み込みや構文慣れなど外国語理解の能力



- イ 学力向上のための手立ての例
- ・英語の長文の読解に慣れるために、文章を読み込むとともにあらすじをつかんだり、重要な部分を抜き出したり、キーワードに着目して読み深めたりするなどの指導を行う。
 - ・英語の構文への理解を深めるために、インプットだけでなく、ライティングやスピーキング、音読練習などアウトプットの場面を多く取り入れた授業を行う。
 - ・常に英和辞典や和英辞典を使える環境が整っており、それらを十分に活用しながら問題文を読みながら大切だと思われる部分に下線を引いたり、設問を見てから問題文を読み返したりするなど解答の工夫ができるよう指導を行う。
 - ・英語検定やALTとの関わりによる英会話力が発揮された「外国語表現の能力」については更なる充実を図り、英語に慣れ親しみ、ためらうことなく英会話を楽しむ姿勢を育む。

上記文中の表現の基準は、下記のとおりです。

- 「上回る」 : 全国平均正答率より + 6 点以上
- 「やや上回る」 : 全国平均正答率より + 3 点以上 ~ + 6 点未満
- 「ほぼ同じ」 : 全国平均正答率の + 3 点未満 ~ - 3 点未満
- 「やや下回る」 : 全国平均正答率より - 3 点以下 ~ - 6 点未満
- 「下回る」 : 全国平均正答率より - 6 点以下

3 学力向上に向けて

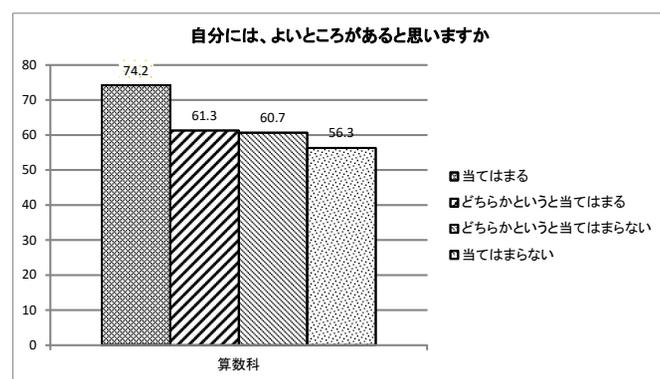
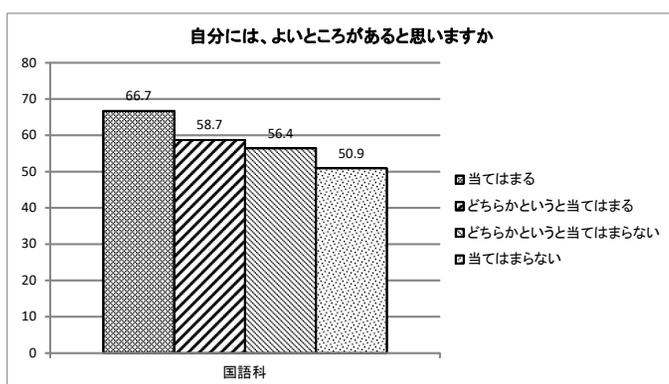
各教科において個々の児童生徒がどのように間違っただかという解答状況に着目しながら教育委員会、各学校でさらに分析を進め、「子どもたちに付けたい力」を明確にした学習指導の改善・充実に引き続き取り組んでまいります。

また、教育委員会が課題や対応策を各学校と共有し、学力充実補助教員等の配置、教職員研修の充実、教育環境の整備に努める等、学力向上に向けた取組を更に進めてまいります。

4 児童生徒の意識と学力との関係、本町児童生徒の特徴

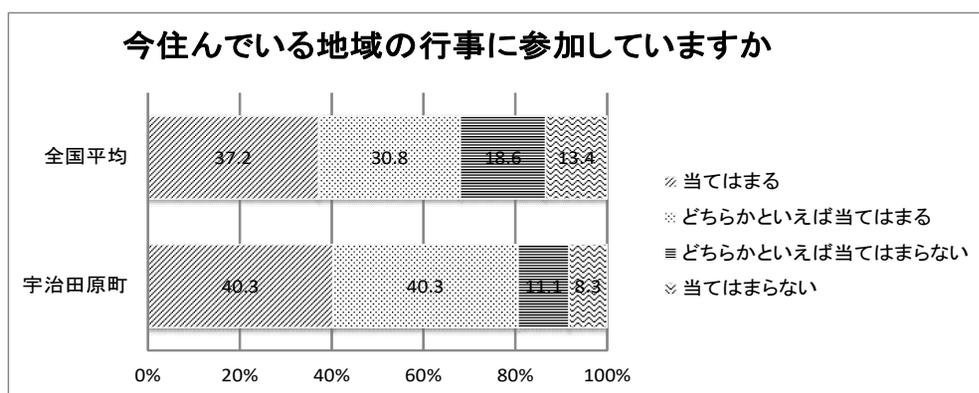
学力調査とともに児童生徒の意識調査も行いました。

本町の小学生は、「自分によいところがある」「人と交流することが好き」と答えた児童の正答率が高い傾向にあり、中学生も同じく「自分の存在価値を強く認識している」生徒の正答率が高い傾向にありました。また、「最後までやりとげる」「みんなで協力して取り組むことで嬉しかったことがある」とする生徒や「話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり深めたりできた」とする生徒の正答率が高くなっていました。



児童への質問「自分にはよいところがありますか」

また、本町の小学生の特徴としては、「地域の行事に参加している」と回答した児童の割合が全国平均に比べ相当高い状況にあり、故郷を大切に思う気持ちが表れている一方で、「自分から進んで」とか「学んだことを生活に活かす」という意識が全国平均より低い状況にありました。



児童への質問「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

本町の中学生の特徴としては「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と回答した生徒の割合が全国平均に比べ高い状況にあり、社会参画意識の高さが表れている一方で、「外国の人と友達になったり、外国のことをもっと知りたいと思う」という意識が全国平均より低い状況にあり、未知のものや環境に対して少し消極的な結果がみられました。

5 家庭にお願いしたいポイント

今回の調査結果から、「学習習慣の定着」、「生活習慣の確立」、「家庭でのコミュニケーションの充実」、「学習環境の整備」などが子どもたちの学力向上と強い結びつきがあることがわかりました。

(1) 学習習慣の定着

ア 家庭で学習する時間や場所などについてご家庭で話し合い、ルールを決めてください。習慣になることで毎日の積み上げができ、学力の向上につながります。

イ 「テレビを見ながら」などの「ながら学習」にならないように気を付け、お子さんが学習している間にご家族の方も配慮して子どもが学習に集中できる環境をこころがけてください。

(2) 生活習慣の確立

ア お子さんの年齢や成長に応じた規則正しい生活リズムを整えさせてください。

イ 過度の使用によって学習や生活習慣、心身の健康に悪影響を与えないようにスマートフォンなどの使用のルールを決めてください。

(3) 家庭でのコミュニケーションの充実

ア 学校での出来事をご家庭で話したり、地域・社会で起こっている出来事について新聞を読んだりニュースを見たりしたことをご家庭で話し合ったりすることも大切です。

イ お子さんと大切な話をするとき「目を見て、しっかりと聞き、きちんと応える」ようこころがけてください。

(4) 学習環境の整備

ア 子どもを図書館に連れて行ったり、本の紹介をしたり、読み聞かせをしたりするなど、子どもが本に親しむ工夫をお願いします。

イ しりとり遊びやクロスワードなど言語に関わる遊び、積み木や迷路等の知育玩具やジグソーパズルなどを、児童の遊びに取り入れてみてはいかがでしょうか。

ウ 児童が様々な知識に出会える辞典や事典などを子どもたちの身近に置いてください。

エ 小学生は、買い物などの場面で支払いの予測や釣銭の計算などをする習慣を付けることも重要です。

オ 生徒は、インターネット等で簡単に情報を入手するだけでなく、じっくり読んだり読み返したりできる新聞や辞典、事典などのアナログコンテンツを使うこともお勧めします。

カ 京都に住んでいるという地の利を生かして歴史学習等で学ぶ社寺や博物館等の文化施設の見学を行って、「実物を見て学ぶ」体験を大切にしてほしいと思います。

キ 自分の性格や適性等を考え自分の将来の夢を抱き、その夢の実現のために努力を積み重ねるようはたらきかけることも大切です。